

令和7年度

帯状疱疹予防接種を受ける方へ

燕市健康福祉部 健康づくり課

(公財)予防接種リサーチセンター 「予防接種ガイドライン 2024 年度版」から転載(一部改変)

※予防接種を受ける前に必ずお読みください。

予防接種の実施にあたっては、効果や副反応を十分理解した上で、医師とよく相談し、体調の良い時に受けてください。



帯状疱疹について

帯状疱疹は、過去に水痘にかかった時に体の中に潜伏した水痘帯状疱疹ウイルスが再活性化することにより、神経支配領域に沿って、典型的には体の左右どちらかに帯状に、時に痛みを伴う水疱が出現する病気です。

合併症の一つに皮膚の症状が治った後にも痛みが残る「帯状疱疹後神経痛」があり、日常生活に支障をきたすこともあります。

帯状疱疹は、70 歳代で発症する方が最も多くなっています。ワクチン接種により、発症予防やその合併症に対する予防効果が認められています。

＜接種するワクチンとスケジュール＞

帯状疱疹ワクチンには2種類あり、接種方法や、効果とその持続期間、副反応などの特徴が異なっていますが、いずれのワクチンも、帯状疱疹やその合併症に対する予防効果が認められています。

○生ワクチン(水痘ワクチン) : 皮下接種 【1回】

○不活化ワクチン(シングリックス) : 筋肉内接種 【2回】 ※2か月以上の間隔をあける

※合併症の一つである「帯状疱疹後神経痛」に対するワクチンの効果は、

接種後 3 年時点では、生ワクチンは 6 割程度、不活化ワクチンは 9 割以上と報告されています。

予防接種を受けられない人

- ① 当日の体温が 37 度 5 分以上ある人
- ② 急性の病気にかかり体の具合が悪い人
- ③ ワクチンの成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある人
- ④ 生ワクチンの場合:先天性および後天性免疫不全症候群の方、副腎皮膚ステロイド剤や免疫抑制剤などの治療を受けている人、注射生ワクチンの予防接種を受け 27 日以上経過していない人
- ⑤ 上記以外で、予防接種を行うことが不適当な状態にある人

裏面もよくお読みください

予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓血管系、腎臓、肝臓、血液疾患などの基礎疾患がある人
- ② 予防接種後 2 日以内に発熱や全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を起こした人
- ③ 過去にけいれんを起こしたことがある人
- ④ 過去に免疫不全と診断されている人、近親者に先天性免疫不全症の人がいる場合
- ⑤ 接種しようとする接種液の成分に対して、アレルギーを起こすおそれのある人
- ⑥ **生ワクチンの場合**：6か月以内に輸血やガンマグロブリンの注射を受けた人



予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ① 接種後にショック症状が現れることがあります。30分程度は安静にしてください。
- ② 接種部位は清潔を保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすらないようにしましょう。
- ③ 接種当日のはげしい運動は控えましょう。

<副反応について>

帯状疱疹ワクチンの接種で比較的多くみられる副反応は、接種した部分の痛み、発赤、腫れ等があります。その他に発熱、悪寒、倦怠感等が現れることがあります。通常、2~3日中に消失します。

極めてまれに重篤な副反応として、血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎、アナフィラキシーが現れることがあります。

⇒ 接種後に気になる症状を認めた場合には、早めに医師の診察を受けてください。

【予防接種による健康被害救済制度について】

① **定期接種の場合**：定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障ができるような障害を残す等の健康被害が生じた場合は、予防接種法に基づく給付を受けることができます。

※給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師、保健所、燕市役所健康づくり課へご相談ください。詳細は、厚生労働省ホームページ「予防接種 救済制度」をご確認ください。

② **任意接種の場合**：接種後に健康被害が生じた場合には、その程度により独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)が実施する「医薬品副作用被害救済制度」により治療費等一定の給付が受けられる場合があります。



ワクチンに関する詳細は、こちら

燕市「成人・高齢者予防接種」

厚生労働省「予防接種・ワクチン情報」